

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：平成 19 年度～平成 22 年度

課題番号：19390564

研究課題名（和文） 小児看護におけるケアリングと癒しの環境創造  
－アクション・リサーチを用いて－

研究課題名（英文） Caring Environment to Enhance Child and Family Nursing  
: Action Research

研究代表者

筒井 真優美（TSUTSUI MAYUMI）

日本赤十字看護大学・看護学部・教授

研究者番号：50236915

研究代表者の専門分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：小児看護学、ケアリング、癒し、アクション・リサーチ

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、複数の施設の病棟や外来においてアクション・リサーチを実施し、子どもと家族の看護を阻む状況を変革させ、ケアリングと癒しの環境を創造することにある。以下の5段階に分けて、計画した。

### (1) 文献検討（平成 19 年度）

子どもと家族の看護を阻んでいる現象、状況を阻む状況を明らかにする。

### (2) ケアレビュー（平成 19 年度）

子どもと家族の看護を阻んでいる現象、状況を阻む状況を明らかにする。

### (3) フィールドワーク（平成 20 年度）

米国のコロラド州デンバーにある Children's Hospital のケアリング理論を導入している病棟を見学するとともに、Dr. Watson らと、本研究の施設別アクション・リサーチについて討議する。

### (4) 施設別アクション・リサーチ（平成 20～22 年度）

看護師が子どもと家族の看護を阻む状況をどのように明確化し、周囲を巻き込みながらどのように変革してゆくのか、その一連のプロセスを明らかにする。

### (5) ケアリングと癒しの環境創造についての統合的な考察・評価（平成 22 年度）

施設別アクションリサーチによって得られた結果を統合し、「ケアリングと癒し」に関する概念を用いて、ケアリングと癒しの環境創造について考察・評価する。

## 2. 研究の進捗状況

### (1) 文献検討

以下の5つのテーマについて文献検討を行った。

①入院する子どもを取り巻く環境、②小児看護における家族のニーズとその援助、③小児看護領域で働く看護師のストレスや感情、④小児看護領域における看護師のスキルや力を阻む状況、⑤入院している子どもが脅かされていることとその援助。

### (2) ケアレビュー

以下3つのテーマにそって、ケアレビューに関する検討を行った。

①各ケアレビューの分析に関するまとめ②小児看護のケースレビューがケース提供者に及ぼした影響、③小児看護に関するケースレビュー後のケース提供者による臨床へのフィードバック

### (3) フィールドワーク

ケアリング理論を導入している小児専門病院におけるケアの実際について視察した。ケアリング理論導入のためのアクション・リサーチの方法についても伺った。また、本研究でこれから行うアクション・リサーチについて、Dr. Watson と討議した。

### (4) 施設別アクション・リサーチ

6施設において、各施設内の倫理審査委員会の承認を得て、施設別アクション・リサーチを開始した。施設毎に、研究協力者が中心となってリサーチグループメンバーを募り、同意を得たうえで施設別アクション・リサーチのグループを結成した。研究協力者は、小児病棟の現状を分析し、その結果に基づき施設別アクション・リサーチの計画を立案した。計画立案に際して、アクション・リサーチによる変化を評価するために、評価指標についても入念に検討した。また、アクションの実施と並行して、アクションに伴う変化を継続的に記述した。さらに評価指標を用いて、ア

クションを評価し、計画を修正し、再計画を立てた。計画立案・実施・評価・修正・再計画という一連の流れを繰り返しながら、研究を進めた。

グループによって施設別アクション・リサーチの進捗状況は異なるが、各施設別アクション・リサーチの進行に伴い、ケアリングと癒しの環境の創造につながるような変化が認められる結果が得られた。

### 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

理由：(1) 文献検討（平成 19 年度）、(2) ケアレビュー（平成 19 年度）、(3) フィールドワーク（平成 20 年度）については、すでに終了している。(4) 施設別アクション・リサーチ（平成 20～22 年度）については 6 施設で実施している。いずれの施設においても、当該施設の抱える課題が解決していくというプロセスが生まれ、変革が起きたことが認められた。さらに、この変革を一時的なものとして終結させるのではなく、より発展的な癒しの病棟の創造を目指して、継続的に変革を推し進める組織風土が根付きつつある施設もある。このように、当初、想定していた以上の成果が認められている。

### 4. 今後の研究の推進方策

昨年度に引き続き、施設別アクション・リサーチを継続する。施設別アクション・リサーチの結果について、分析及び考察し、論文としてまとめる。この過程において、研究分担者は定期的に（年 5 回程度）話し合いの場を持ち、施設別アクション・リサーチの論文作成のサポートを行う。

研究分担者は施設別アクション・リサーチの研究結果を基にし、ケアリングと癒しの環境創造について統合的な研究結果を生み出す。

前年度までに行ってきた(1) 文献検討、(2) ケアレビュー、(3) フィールドワークの結果を含め、(4) 施設別アクション・リサーチ、(5) ケアリングと癒しの環境創造について、統合的な考察・評価について報告書をまとめる。各論文を学会等にて発表する。

### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

(1) 伊藤孝子・西田志穂・深谷基裕・山内朋子・長谷川孝音・江本リナ・筒井真優美・松尾美智子・中澤淳子・飯村直子・西村実希子・川名るり・平山恵子 (2010). 小児看護のケースレビューがケース提供者に及ぼした影響. 日本小児看護学会

誌, 19 (1), 50-56. 査読あり.

(2) 西村実希子・西田志穂・山内朋子・筒井真優美・松尾美智子・伊藤孝子・長谷川孝音・江本リナ・深谷基裕・中澤淳子・飯村直子 (2009). 小児看護領域における看護師のスキルや力を阻む状況に関する文献検討. 日本小児看護学会誌, 18 (2), 36-42. 査読あり.

(3) 長谷川孝音・江本リナ・深谷基裕・中澤淳子・飯村直子・西村実希子・西田志穂・山内朋子・筒井真優美・松尾美智子・伊藤孝子 (2009). 入院している子どもが脅かされている事とその援助に関する文献検討. 日本小児看護学会誌, 18 (2), 29-35. 査読あり.

(4) 松尾美智子・筒井真優美・伊藤孝子・山内朋子・西村実希子・西田志穂・長谷川孝音・江本リナ・深谷基裕・中澤淳子・飯村直子 (2009). 入院する子どもを取り巻く環境に関する文献検討. 日本小児看護学会誌, 18 (1), 112-119. 査読あり.

(5) 中澤淳子・飯村直子・長谷川孝音・江本リナ・深谷基裕・西村実希子・西田志穂・山内朋子・筒井真優美・松尾美智子・伊藤孝子 (2009). 小児看護における家族のニーズとその援助に関する文献検討. 日本小児看護学会誌, 18 (1), 120-126. 査読あり.

(6) 山内朋子・筒井真優美・松尾美智子・伊藤孝子・西村実希子・西田志穂・長谷川孝音・江本リナ・深谷基裕・中澤淳子・飯村直子 (2009). 小児看護領域で働く看護師のストレスや感情に関する文献検討. 日本小児看護学会誌, 18 (1), 127-134. 査読あり.

〔学会発表〕（計 10 件）